

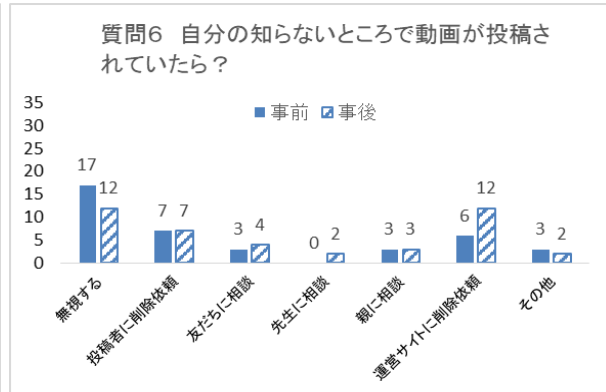
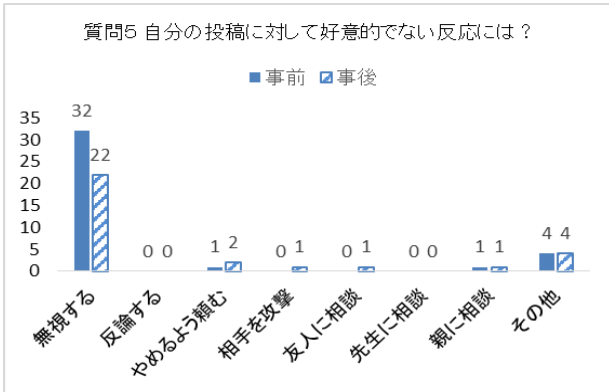
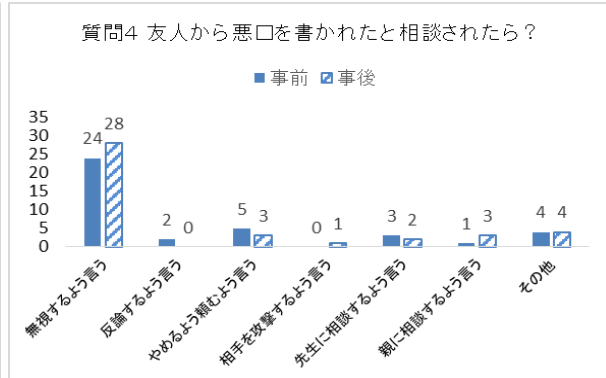
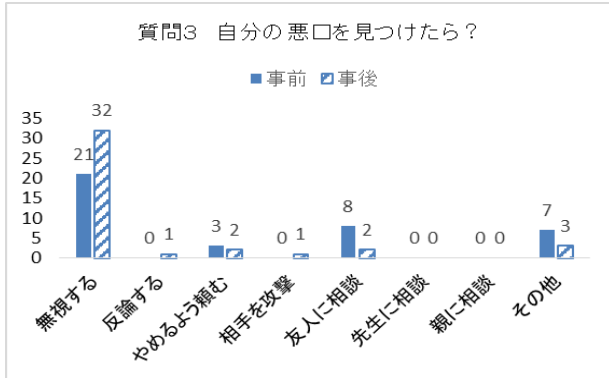
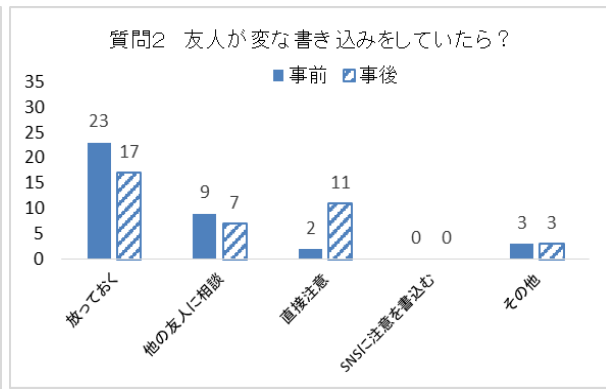
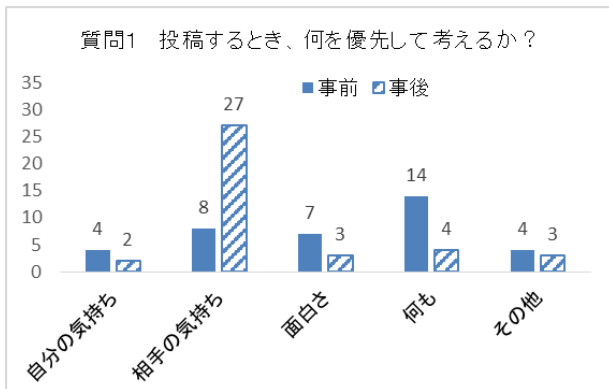
## 情報モラル教育実践授業報告書

対象学年	高校 2年
領域	教科指導 (英語科)
指導項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンを使うときのモラル・マナーの向上</li> <li>・助動詞・仮定法を使った言語活動</li> </ul>

情報モラル指導モデルカリキュラム ( <a href="http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html">http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html</a> )			
指導分野	安全への知恵		
コード	b5-1 d5-2	指導事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の権利 (人格権, 肖像権など) を理解し, 尊重する。</li> <li>・トラブルに遭遇したとき, さまざまな方法で解決できる知識と技術をもつ。</li> </ul>

授業前の生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNSを使ってコミュニケーションをする機会が増えている。その中で, 安易な投稿で人を傷つけたり感情的に反応したりして, 思いもよらない人間関係トラブルに発展することがある。</li> </ul>
生徒の心理的成長過程に応じた指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校生の時期は, 心理的に大人と子どもの中間にあり, 客観的に判断し行動することができることもあれば, 驚くほど幼い行動をすることもある。インターネット上でのトラブルに対し, 相談されるというシチュエーションをすることで, 大人として客観的に対応させることの大切さを学ばせるよう工夫した。</li> </ul>
期待される生徒の変容 (実践のねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNSによる書き込みが人に与える影響を理解し, 投稿する前に結果や相手の気持ちを考えることができる。</li> </ul>
生徒の変容を促すための授業の工夫 (ポイント)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「自分が被害者だったらどうするか?」を考えさせることで, 当事者意識をもたせる。</li> <li>・ 「自分が相談されたらどうアドバイスするか?」という場面を設定することで, 現実に起こり得る状況で客観的な判断ができるようにする。</li> <li>・ 意見を共有する場面を設定することで, 多様な価値観に触れさせる。</li> </ul>
利用するコンテンツ等 (サイトのアドレス) または資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報モラル教材 ネット社会の歩き方 (<a href="http://www2.japet.or.jp/net-walk/">http://www2.japet.or.jp/net-walk/</a>)</li> <li>高校生 62 「後輩からの相談」</li> </ul>

## 事前事後アンケートによる比較



## 事後アンケートより（自由記述）

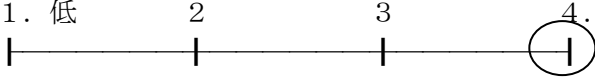
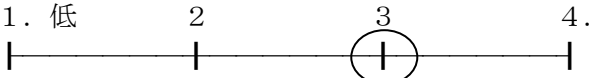
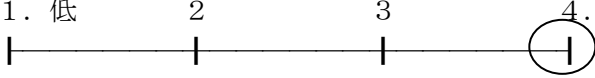

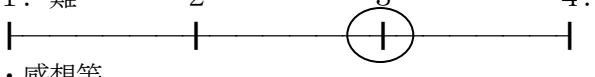
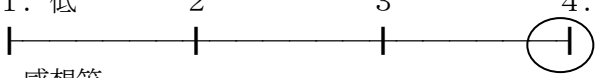
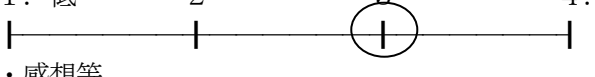
### ①自分の言葉について

- ・言葉は「言霊」と言われたことを思い出しました。今回の授業で言葉に対する責任感が強くなったと思います。
- ・言葉は刃物だと思います。使い方を間違えると相手を傷つけてしまうので、しっかり考えたいです。
- ・自分も気を付けていますが、嫌な事があるといたくなくなってしまいますので、自分の気持ちをコントロールしたり、誰かに相談したりしたいと思います。
- ・インターネットは誰でも見られるので、気を付けなければいけないと感じました。
- ・自分の周りの小さな世界ではなく、知らない人や親などの、人の目を感じる事が大切だと思いました。
- ・相手の気持ちをしっかり考えずに言葉を遣っていました。もっと考えて適切な言葉を遣おうと思いました。

### ②SNSへの投稿・書き込みについて

- ・無視する以外のよい対応があるのでは、という考えが浮かびました。
- ・時にはトラブルや犯罪にさえなることもあるので、責任をもった発言を心がける必要があると思いました。
- ・ルールを守って利用者全員が気持ちよく使えるようにするのが大切であると思いました。
- ・まず相手のことを第一に考え、トラブルになりそうな書き込みをしないことが大切だと思いました。
- ・何も考えずに投稿・書き込みはしてはいけないと思いました。後のことを考えてやるべきです。

# 評価

児童生徒について	生徒の興味・関心の度合い	1. 低                      2                      3                      4. 高  理由・感想等 ・インターネット上でのトラブルを身近な問題として捉え、さまざまな事例について活発に話し合うなど、興味・関心は高かった。
	生徒の理解度	1. 低                      2                      3                      4. 高  理由・感想等 ・問題点や対応策についてスムーズに話し合いが進み、理解を深めさせることができた。しかし、自分の考えを英語で表現するための変換には時間を要した。
	生徒の変容の度合い	1. 低                      2                      3                      4. 高  理由・感想等 ・アンケート結果からも読み取れるが、多くの生徒がSNSに投稿するときに、相手の気持ちや後の影響を考えようとする意識をもつことができた。
授業について	事前準備の難易度	1. 難                      2                      3                      4. 易  理由・感想等 ・既存の教材を用いており、事前準備は容易である。グループワークは入念な準備を行ったため、時間を要した。
	指導者にとっての授業展開の難易度	1. 難                      2                      3                      4. 易  理由・感想等 ・生徒の話し合いを確認しながら英語に変換させる部分は難しいが、定型文を示すことでコントロールできた。
	授業の「ねらい」の達成度	1. 低                      2                      3                      4. 高  理由・感想等 ・当事者意識を持たせることで、活発な意見交換が行われた。アンケートの結果からも、相手の気持ちを考える意識が向上するなど、授業のねらいにせまる取組ができた。
	指導方法の効果の度合い	1. 低                      2                      3                      4. 高  理由・感想等 ・英語の授業における会話練習として情報モラルの教材を用いたことで、生徒の興味・関心が高く、意欲的に取り組ませることができた。
<実践の感想及び反省点等> ・当たり前のようなことを繰り返し伝えることの必要性を感じた。 ・情報モラルと英語コミュニケーションを組み合わせることで、より実践的な授業をコミュニケーションティブに行うことができた。 ・コンテンツ自体を英語にすれば、英語の実践授業になるので、よりよい素材探しが肝要である。		

## 実践例

配当時間		学習のすすめ方	指導のポイント
導 入	10 分	1 4人1組のグループをつくり、SNS上での人間関係トラブルについて、自分たちの経験や身近で起きた事例を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な価値観に触れさせるため、グループ内で必ず1回は発言するように促す。</li> </ul>
展 開	30 分	<p>2 「後輩からの相談」のネットに悪口を書かれた場面を見て、自分がコウタ君の友人だったらどんなアドバイスをするか考え、グループで意見交換する。</p> <p>3 グループの意見を一つ決めて英語で発表する。</p> <p>4 「後輩からの相談」の学習課題1を見て、自分たちの解決方法も含めて、どれが一番よい方法かを考える。</p> <p>5 一番よいと思う対応を英語で発表する。</p> <p>6 「後輩からの相談」の動画を勝手にネットに載せられた場面を見て、チヒロさんがどう対応するべきかをグループで意見交換する。</p> <p>7 「あなたは～すべきだ」という直接的なアドバイスではなく、仮定法を用いることで「私だったらこうする」という提案を行う。</p> <p>8 「後輩からの相談」の学習課題2を見せ、自分たちの解決方法も含めて、どれが一番よい方法かを考える。</p> <p>9 一番よいと思う対応を英語で発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見が決まったところで、助動詞を使った表現の基本を確認させる。</li> <li>定型文を例示する。 I think ○○ is the best way to solve this problem because ～.</li> <li>仮定法を使った表現を確認させる。 If I were you, I would 動詞の原形 ～. If I 動詞の過去形 ～, he would 動詞の原形 ～.</li> <li>説得力を増すために理由も付け加えることを指示する。</li> </ul>
ま と め	10 分	10 グループで意見を交換し、グループオピニオンとして意見を英語でまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分と異なる意見をもったメンバーと、お互いの意見を尊重しながらグループとしての意見をまとめさせる。</li> <li>その対応がよいと思った理由が明確に説明されていることを確認させる。</li> </ul>

## 情報モラル教育を広げるための方策と課題

情報モラル教育を広げるための実践	当該学年の英語科全ての授業で、パフォーマンステストやディスカッションに情報モラル教育の教材を利用した。「正しい答え」のない問いかけなので、生徒同士で活発なコミュニケーションが行われた。
情報モラル教育を広げるための課題	教科の授業内で行うには、他の教員の理解と連携が不可欠である。通常の授業に加えて、このような取組に意義を感じてもらうための工夫が必要である。英語科であれば、言語という強みを生かして、コミュニケーション活動として情報モラル教育を広めることは可能である。しかし、他教科を含めた学校全体で、どのようにアプローチしていくかが課題である。